

ラファエロ 「アテネの学堂」



- ①プラトン (レオナルド=ダ=ヴィンチ) ②アリストテレス ③ソクラテス ④エピクロス ⑤ピタゴラス ⑥ヒュピティア: 4世紀 ア
レクサンドリアの女性数学者、415年、キリスト教徒に害殺された。(一説にこのモデルはラファエロの愛人マルガリータだという) ⑦パルメニデ
ス ⑧ヘラクレイトス (ミケランジェロ) ⑨ディオゲネス ⑩エウクレイデス (ブラマンテ) ⑪ソロアスター: 天球儀を持って、プトレマ
イオスと対話している。⑫プトレマイオス: 地球儀を持っている。 ⑬プロティノス ⑭ラファエロ本人が顔を出している。

諸子百家

- 儒家
- 道家
- 法家
- 墨家
- 名家
- 陰陽家
- 縦横家
- 雑家
- 農家
- 小説家
- 兵家

春秋時代に多くあった国々は次第に統合されて、戦国時代には7つの大国(戦国七雄)がせめぎ合う時代となっていった。

諸侯やその家臣が争っていくなかで、富国強兵をはかるためのさまざまな政策が必要とされた。それに答えるべく下克上の風潮の中で、下級の士や庶民の中にも知識を身につけて諸侯に政策を提案するような遊説家が登場した。諸侯はそれらの人士を食客としてもてなし、その意見を取り入れた。さらに諸侯の中には齊の威王のように今日の大学のようなものを整備して、学者たちに学問の場を提供するものもあった(稷下の学士)。その思想は様々であり、政治思想や理想論もあれば、実用的な技術論もあり、それらが渾然としているものも多い。墨家はその典型であり、博愛主義や非戦を唱えると同時に、その理想の実践のための防御戦のプロフェッショナル集団でもあった。儒家も政治思想とされるものの、同時に冠婚葬祭の儀礼の専門家であった。兵家は純粋な戦略・戦術論を唱える学問と考えられがちであるが、実際には無意味な戦争の否定や富国強兵を説くなどの政治思想も含んでいた。

百家争鳴の中で、秦に採用されて中国統一の実現を支援した法家、漢以降の王朝に採用された儒家、民衆にひろまって黄老思想となっていった道家が後世の中国思想に強い影響を与えていった。また、兵家の代表である孫子は、戦術・政治の要諦を短い書物にまとめ、それは後の中国の多くの指導者のみならず、世界中の指導者に愛読された。一方で墨家は、儒教の階級主義を批判して平等主義を唱え、一時は儒家と並ぶ影響力を持ったが、その後衰退している。